

各 位

会 社 名 プレシジョン・システム・サイエンス株式会社  
代表者名 代表取締役社長 田島 秀二  
(コード番号：7707 大証ヘラクレス)  
問合せ先 取締役業務本部長 秋本 淳  
(TEL 047-303-4800 <http://www.pss.co.jp/>)

## PSS、NEDO「SBIR 技術革新事業」の委託研究開発事業に採択される 特定食物アレルギーの迅速・簡易定量システムの実用化に向け開発

プレシジョン・システム・サイエンス株式会社(PSS)は、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO、村田成二 理事長:神奈川県川崎市)より、同機構が募集したバイオテクノロジー分野における「SBIR(Small Business Innovation Research)技術革新事業」に対して、PSSが提案した「特定食物アレルギー迅速・簡易定量法の開発」が、委託研究開発事業として採択されたとの通知を受けました。

これは、PSSが昨年 10 月より進めてきた「特定食物アレルギー迅速・簡易定量法の開発」に向けた事前調査研究(本年 5 月に終了)の実施を経て、研究開発への継続が決定したものです。これにより、PSSは、今後 1 年間にわたり、SBIR技術革新事業の受託事業(年間予算 5 千万円程度)として、食品会社が自主検査に使用できる特定食物アレルギー(アレルギー誘発物質)の迅速・簡易定量システムの確立に向けた開発を本格化させます。

昨今の食物アレルギー患者の増加に伴い、平成 14 年に特定原材料として 5 品目(卵、乳、そば、小麦、落花生)の表示義務が始まりました。平成 20 年には、えび、かこの 2 品目に加わり、現在 7 品目が表示義務対象となっているほか、特定原材料に準じた 18 品目も表示が推奨されています。一方で、食品事業者が食品工場等で、自主的な管理に利用できる安価・迅速・簡易な方法が普及していない現状があります。

PSSでは、これまでに蓄積してきた自動化、抽出技術(Magtration®)に加え、多項目を同時に検出できる BIST™(LuBEA)技術の応用により、食品事業者が比較的容易に導入できる、安価、迅速及び簡易な、特定食物アレルギーの多項目同時測定システムの技術検証に取り組んできました。今回、BIST™(LuBEA)技術の特長をいかしたPSSの実用化提案が評価されたことにより、本システムの早期実用化を図るとともに、BIST™(LuBEA)技術の応用拡大に向け、一層の努力を傾注してまいります。

(ご参照:NEDO ホームページ)

<http://www.nedo.go.jp/>

以 上